

日本安全保障貿易学会の発足

平成17年6月6日

日本安全保障貿易学会 会長 山本武彦



去る5月31日に早稲田大学国際会議場において日本安全保障貿易学会の設立総会が開催され、安全保障貿易をめぐる理論と実際の諸問題を学問的に研究する共通の場としての学会が正式に発足した。これにより、輸出管理を含む安全保障貿易の広範な問題を産官学の連繋によって考え、公共政策としての安全保障貿易政策のあり方をめぐって共通の認識を広める機会が増えることは間違いない。欧米、とくにアメリカでは安全保障貿易の諸問題は社会科学の一研究領域として捉えられ、また政府や企業による自己ガバナンスの重要な分野として認識されてきた。これらの問題意識を共有する産官学の関係者が集まり、「知識共同体 (epistemic community)」としての「輸出管理共同体」が形成され、そこで得られた知見を参考にしながら政府や議会による輸出管理政策や法制度の策定、企業内部の輸出管理制度の整備など、安全保障貿易に関係するさまざまな試みがなされてきたが、

日本での学会設立はこのような意味での共同体の創生を目標としている。

設立総会では赤津光一郎・経済産業省安全保障貿易管理課長の挨拶の後に、会則など今後の学会運営の骨格となるルールについて討議・承認した後に、役員を選出し、本年9月3日（土）に予定された第1回研究大会開催の日程を確認して終了した。終了後、97名の出席者を前に「アジアにおける大量破壊兵器の拡散問題と輸出管理」と題して森本敏・拓殖大学教授による記念講演が行われ、この講演を受けてシンポジウムが開催された。パネリストとして清川佑二・(株)東芝取締役執行役専務取締役、村山裕三・同志社大学大学院教授の両氏が参加し、アジアの安全保障貿易先進国としての日本の果たすべき役割について活発な議論が展開された。会場の参加者からも鋭い意見や質問が寄せられ、パネリストから応答が行われて学会の発足にふさわしいシンポジウムとなった。



設立総会で選出された日本安全保障貿易学会の役員は以下のとおりである。
会長：山本武彦（早稲田大学） 副会長：村山裕三（同志社大学） 事務局長：小林忠祠（C I S T E C） 会計幹事：新留二郎（東芝） 監事：鈴木達治郎（電力中央研究所） 平井進（ソニー）